

# 次世代のCo-縁(公園)、その名もハコーエン



ピュアホワイト 菊野愛佳 (4年)

ピュアパープル 長尾颯希 (2年)

ピュアオレンジ 山田真尋 (1年)

ピュアイエロー 兼坂亜季 (2年)

ピュアピンク 森本奏太 (1年)

ピュアブルー 中野遥菜 (1年)

## 提案内容

～『公園』×『電話ボックス』=『ハコーエン』が生み出す人を集める“攻めの魅力”と地域を守る“守りの魅力”～



(イメージ)

○ライトアップし、地元周南市の魅力である工場夜景を連想 ⇒街角プチプリクラ機にも！  
(装飾による地域性の再現)

○ソーラーパネルや蓄電器も設置すれば、電力の時給持続も可能に！

○あえて中身が見える防災グッズ収納ボックス ⇒家庭での準備の意識付けに！

○普段はお一人様用のベンチとして活用！

○非常時には、イルミネーションボックスをスマートフォンの充電スポットに！



(イメージ)

## 捉えた課題 (着想に至った経緯)

～身近な地域インフラ“公園”の衰退～

### ○遊具の老朽化

修繕するための財源・人手が不足し、使用禁止からそのまま撤去へ

### ○禁止事項の多様化

ボール遊び等は、ベンチでの長居までもが禁止に！！

### ○携帯電話・ネットの普及

友人との交流等も自宅で完結 → 外出する機会そのものが減少

### ○廃棄される電話ボックス

公衆電話は20年間で50万台減、今後10年以内にさらに8万台程度減少

⇒ “引き算”され続けた公園に、  
これからの時代に見合う“足し算”を



## 生まれる効果

### ○新たな価値観の提供と地域コミュニティの形成

住民の公園に対する興味・関心を引き出し、「公園に行ってみる」きっかけに公園に人が集まれば、新たな地域コミュニティの形成へ！

### ○近隣住民にもたらす安心感

“いざ”というとき、地域の防災拠点としての役割を担う

### ○環境に配慮したまちづくりの推進

電話ボックスを再利用することで、資源の有効活用と廃棄物の発生量を削減

### ○予算の削減

資源を再利用すれば、公園の維持管理に要する費用も抑制可能に！

⇒ 使用者・管理者双方にメリットをもたらし、  
身近な地域インフラの大切さを再発見



電話ボックスと公園がCollaborationし、新たな価値を生み出すことで地域の人々の縁を結びつけていく、  
そんな場所が「次世代のCo-縁(公園)、その名もハコーエン」